

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270901588		
法人名	有限会社ぐるうぷほうむ礎		
事業所名	ぐるうぷほうむ礎		
所在地	船橋市行田3-2-22		
自己評価作成日	令和2年10月12日	評価結果市町村受理日	令和2年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和2年10月30日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安心して最期を迎えることができる施設で有る為に、努力は惜まずチームケアに力を入れております。特に子どもの施設は医療、看護、介護部署共に10年以上の在籍職員が多数あり、非常に連携が取れている環境にあります。なれ合いにはならず、高水準のケアができるよう日々研修や外部勉強会に出席するなどして切磋琢磨しあっております。そのすべてを利用者の介護のためにフィードバックし、今のチームケアが実現できています。利用者におかれましては、日々の生活そのものがリハビリで有ることを説明しています。機械的なリハビリではなく、その方の生きるために必要な生活動作が何よりのリハビリですと伝え実践してもらうように努めています。介護保険法第4条に則り、利用者個々人が生きていくための努力を行って生活していただけるように、援助・助言するように努めております。利用者、その家族と意見がぶつかってしまうこともありますが、優しさだけでは利用者は守れないことをご理解していただき、本当に生きるために必要なほんの少しのお世話を我々は全力で行っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①「看取りは居家で家族とともに」「共に生きる・・」等の独自の理念を掲げ、生きるためのチームケアが行われている。②日々の担当者会議、連絡・相談等の組織介護を徹底し、ケアプランの実践と見直しが行われている。③職員は日常的に会話を交わし、「だれがやっても金太郎飴の介護」の方針の基、正確な記録、詳細な介護日報、便の性状まで確認する事象報告など、小さな情報を積み重ね、統一された援助内容を妥協することなく実践している。④介護職・看護師・ケアマネジャー、医療関係者との密な連携が行われ、利用者の些細な変化に対しても迅速な対応が行われている。⑤尊厳を守る看取り介護が細かく実施され、人生の最後まで寄り添う支援により、利用者・家族からの信頼は高い。⑥理念に基づく職員の姿勢は、仕事にやりがいと誇りを持ち、勤続年数は長い。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	看取りは居宅で家族とともにを企業理念に掲げてサービスを行っております。住み慣れた場所で終の棲家になるべく介護に努めております。朝礼やミーティングの場で事業所のあり方や理念等を確認し、共有に努めております。	「能力を出し合い補い合い、共に生きる」等を理念に掲げ、生きるためのチームケアが行われている。職員は一人ひとりの利用者のより良いケアを求めて日常的に会話を交わし、全力で利用者の命を守る支援が行われている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動への参加や民生委員としての活動等を通して地域との連携や情報の共有に努めております。運営推進会議にて地域包括センターとの情報交換も行うなどして交流を図っております。	自治会の花の植え替え等のイベントに職員が参加し、自治会からは余ったパッドやオムツなどの提供が行われるなど、双方向の交流が行われている。利用者は散歩などの外出時に利用者の自然な姿を見て頂き地域の方と繋がりを持っていたが、コロナ禍の為に難しいのが現状である。	地域社会に認知症の理解を深める活動を、もう一步踏み込んで取り組むことに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に密着した事業所を目指し、自治会や民生委員からの連絡相談を密にし、当事業所付近の団地にお住まいの方や近隣住民の方が不測の事態に見舞われた際、地域の認知症対応施設として、一時的な受け入れをする役割を果たしております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度運営推進会議を実施しております。利用者ご家族からの具体的な意見などを参考に実際の介護現場で取り入れる内容等もあります。民生委員さんや地域包括の方からの貴重な意見や情報も共有するようしております。	運営推進会議はご家族等の要望により対策を十分にとり参集して行われている。会議では地域包括センター職員や自治会長より地域で困っている方の相談が寄せられ、ホームからはコロナ禍での施設の対応をアドバイスするなど、有益な会議が実践されている。	会議参加者の幅を更に広げて地域情報の収集や意見を更に得る取り組みに期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険を利用して住み慣れた地域で生活していくのは市町村との連携が不可欠です。何か分からないことがあった場合など、施設の判断だけで解釈せず、船橋市の担当課に連絡を取るようして適切な行動をとれるように連携を図っております。	市の監査指導課とは認定更新の申請について随時相談が行われ、地域福祉課とは生活に困窮した方の支援を連携して行っている。地域包括支援センター職員より認知症で難渋されている方の相談があるなど、密接な協力関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を念頭に置き、全職員が人間の尊厳を冒さぬケアを実施するよう日々努力しております。今年はコロナのため外部研修への参加は控えておりますが、内部研修にて身体拘束のないケアの実践を目指しております。	管理者は「自分がされて嫌なことは」を徹底し「人」として当たり前の事をするように指導している。ホームでは玄関にカギをかけず、利用者の自由を尊重し見守る介護に努めている。どうしても拘束が必要と思われる事例においても、職員は日常会話の中で代替案を模索し拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	船橋市高齢者虐待防止マニュアルを基本に虐待を未然に防ぐよう内部で研修する機会を持っている。今年はコロナの影響で外部研修は控えております。日々の生活の中で些細なことでも虐待では？と疑問を持つようになっています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年は内部研修を通じて理解を深める機会を設けております。日常生活自立支援事業と成年後見制度の違いを正しく理解できているかなど皆で確認しつつ、必要である方への対応に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者及び家族の方が、納得をしていただくための締結となりますので安心して入居していただくような配慮を怠ることのないようにしております。当事業所の大切にしている部分や方針もきちんとお伝えしたうえでご判断いただくよう誠実な説明を心掛けております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に運営推進会議の場にて家族の意見や要望を聞くことに努めております。家族が面会にお見えの際に時間を作っていただきご本人の状況を報告したり家族の意見をお聞かせ願うこともあります。施設内苦情相談入れを設置しており、家族とも両輪で利用者様を支えていくよう努めております。	運営推進会議等でご家族と共に生活の現状を話し合い、利用者本人の理解を共有し、家族と共に利用者を支えるように努めている。家族からはホームに行きやすい、目が行き届いていると感謝の言葉が寄せられ、利用者のみならず、ご家族への配慮も心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	当事業所は在職10年以上の職員が多数おり、様々なことに適宜対応できる状況であります。代表者や管理者は朝礼やミーティングを活用し皆の意見や提案を聞く機会を設けております。何気ない日常会話の中にも貴重な意見があり実践へと反映することもあります。	個々の利用者の心身状況については職員全員で詳細に共有し、利用者を守る支援が実施されている。理念に基づく職員の姿勢は介護の仕事に誇りとやりがいを持つことに繋がっている。その結果、長く勤められている職員が殆どである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表やホーム長が常に近くにいていただいているので、管理者や職員が安心して仕事に取り組むことができる環境にあります。法改正ごとに様々な対応を迅速にとり、皆に情報をきちんと与えてくださっています。働き続け易くする為の対応を日々考えて実行して下さっております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間スケジュールを作って内部研修は実施されています。時々に応じて更に必要なことは別途研修を行っております。新人職員は、OJTをメインとした育成を行っております。すべての物を完璧にではなく、どこかの部分を一つでも出来るようにしてもらうことを念頭に指導することを心掛けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主には外部研修を通じてのネットワークづくり、管理者としてはグループホーム連絡協議会に参加しての意見交換などで情報の交換や交流を図っております。今年はコロナの影響でなかなか同業者との交流が摂れていないのが現状です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護保険第四条をもとにご本人がどう生きていきたいのかを念頭に、ご本人が助けを得なければいけない部分を手助けする。当法人の理念に金太郎あめの介護というものがあります。誰がやっても同じ介護を行うようにしております。ご本人にいつでも同じ環境を提供できるようにすることにより安心を確保していただけるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	きちんとした関係を築くために出来ることと出来ないことを明確に伝えることを心掛けております。導入できない理由を説明し納得していただいたうえでサービスを行っていくように関係を築く努力をしております。先々のビジョンの中にいずれ可能なサービスが出てくることもあることを合わせてお伝えし、本人の生きる目標としていただくこともお話をしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症介護のプロとして、介護分野での最大限のサービスが提供できるような配慮を心掛けています。ただご本人のADLやその他疾患等での悩みなどもきちんと聞き取り、必要であれば医療サービス等の案内や手続きも柔軟に対応するよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護保険法の目的を核に、お互いが対等な関係で共に生きていくことを目的としております。できる限りの残存能力を生かしてもらおうような介護を実践するように努めており、ご本人にも協力を求めさせていただいております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成の際や、更新の時期などの要望等に加えて、家族会での意見交流なども利用してご家族の本意を聞き取るように努め介護の実践へと反映させていくよう努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症の方々は馴染みが遠ざかり家族の方が支えるのが困難な状態になっての入居がほとんどです。キーパーソンを通して出来る限りの馴染みの方との面会等は可能な環境を提供しております。私ども事業所も最後まで時を共に過ごす馴染みの関係を築くよう日々努めております。	殆どの利用者は入居年数も長く、馴染みの人との関係が薄れているのが現状である。コロナ禍の為、ご家族の協力を得て電話して頂くように努め、「どうしても会いたい」というご家族の願いには、別の事務所においての面会が行われるなど利用者、ご家族の立場に立った支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然と興味がわくものや、関わりたいもの、行いたいもの、個々人で違うことは当然ですが、無理強いせず自然に起こる関係性を大切に見守るよう努め、可能な限りの環境を整備するように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日ごろからの信頼関係の構築を図ることにより、今でもサービスが終了した方のご家族とも交流があります。当事業所では地域のコミュニティの一部として機能することができるよう、いつでもご相談していただければと考えております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で想いや考えを伝えてくださる方々もいらっしゃいます。発せられた言葉全てが正確に表しているとは限らないため、その情報を共有するためご家族に開いたりなどしてケアプランに落とし込むよう努めております。ご本人の意に沿うことができない場合は、何故そうなのかをきちんと説明しご理解をいただけるような対応も致しております。	利用者、ご家族の希望・意向を常に把握し、担当者会議や日々の話し合い等で共有し、ケアプランに繋げている。「不安なく生活したい」「痛みなく暮らしたい」という思いや願いに「本人本位」を大切にし、一人ひとりの思いに副うような支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書面だけでは測れない様子を把握するため、前任のケアマネ様、ケースワーカー、前施設の担当者の方等にお話を聞かせていただくなどしてそのかたのバックボーンをより深く知るよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職と医療職が密に連携を図り状況の把握に努めております。個々の生活リズムに合わせ、能動的な行動を大切に見守り、安全に注意を払い、重度化予防の支援に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まずご本人がどう過ごしていきたいか、どのようにしてほしいかの聞き取りをきちんと行ったうえで、介護保険第4条に則って可能な限りにおいて自分で出来ることは自分で行ってもらうようお伝えをし、本人が納得の上自立に向けた前向きな介護計画が作れるよう努めており、ご家族にも説明のうえ協力を仰いでおります。	利用者、ご家族の意見や希望を介護職員が共有し、共に取り組む介護計画が作成されている。ホームの理念の基、全職員が全利用者の介護計画や支援内容を理解しており、日々の小さな情報を積み重ね、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常勤職員によるローテーションシフトで当事業所は対応しており、普段の様子を確認し皆へ情報を提供し相談も行うケアに反映させております。仕事の中で皆で個々の方のことで気づいたことは担当でなくても全職員共通認識として情報の共有に努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	住み慣れた環境で看取りまでを、ご本人と家族とともに行うことが当事業所の理念です。ご自宅にいた時のような状況を可能な限り整備していくよう努めており、総合的な在宅支援の機能が存在出来るよう取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ミクロな部分から出来得る限りの地域社会資源を見つめられるよう努めております。その他運営推進会議や家族会を通じて、使えることのできる地域資源はないか、相談しつつ可能性を広げるよう取り組んでおります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が長らくかかれていた医療機関に出来得る限り受診ができるようにしております。状態によっては訪問診療を受けることも可能なかかりつけ医を提携医療機関としております。事業所内においては細かな情報の共有ができており、家族への報告等も速やかに行うことができております。	本人及び家族の希望により、訪問診療と外来受診のどちらかで適切な医療が受けられるよう支援体制が整っている。精神科や皮膚科等の専門医への受診の際は、家族と相談しながら職員が通院支援を行っている。また、緊急時や入院を必要とする場合に迅速な医療連携が図れるよう、日頃から情報を整理し準備が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所は医療連携加算を取っており、看護職との密な連携を取ることができるのが強みであります。常に状態の報告等は看護職には行っております。毎日の朝礼時において、更に日々の詳細な報告を行い相談もできる環境にあります。必要に応じてすぐ対応してもらえ支援体制をとっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当事業所では、介護・看護・ケアマネが密に連携を取り合い情報を共有しあっており、迅速な対応が出来るよう日々心掛けております。医療機関様にも、こまめに連絡を取るよう心掛け、利用者様の不利益が無きよう先方のソーシャルワーカー様とも情報交換をして対応に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為・延命に関する意思確認書を、早期に取り交わしております。ご本人、家族が安心して暮らせるように努めております。意思確認書はいつでも何度でも考え直すこともきちんとお伝えしております。当事業所として行うことが出来るもの出来ないものを誠実にお伝えしたうえで、双方が納得したうえで支援に努めていけるよう取り組んでおります。	入所の際は、看取り介護指針に基づき説明を行った上で、医療行為・延命に関する意思確認書を作成している。職員は、看取りに関する内部研修のみならず、看取りの後もデスクカンファレンスを実施し自分たちの実践についての振り返りを行っており、施設の理念である「最後まで寄り添う」ことに真摯に向き合い信念を貫いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えたマニュアルを作成しております。日ごろは内部研修を通じて各々知識を得、実戦練習等にてシミュレーションを図っております。今年にはコロナの影響で実施できておりませんが必要に応じて、消防に出向き救命講習を受けるようにして質の確保に努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えた避難計画をマニュアル作成しております。毎日の朝礼にて初期対応等を踏まえたマニュアルの朗読を行っており、日々イメージを保つよう努めております。防火管理者が主体となり近隣の消防にアドバイスをいただくなどして、より具体性のある対応に努めるようにしております。	災害についての避難計画マニュアルが整備されており、火災発生時の手順については、毎日の朝礼の際にチャートの読み上げ確認を実施し、いざというときに迅速に行動できるように工夫されている。そのことが年2回実施されている防災訓練においても通報訓練や避難誘導訓練時の適切な職員行動の定着につながっている。	日頃より、自治会をはじめとする地域住民との情報の共有や連携が図られていることから、防災訓練への参加・協力についても積極的に検討していくことが望まれる。また、火災だけでなく台風での経験を踏まえて避難計画マニュアルに追加がされていくことにも期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会の設置とともに事業所としての最低限度のマナーの維持に努めております。日々においては内部研修を通じてその方の守るべきものをチームとしてきちんと守る努力をしております。認知症の特徴などに留意した言葉かけや対応はプロとして持っていることが必須であると考えております。	利用者一人ひとりの尊厳を守るため、施設では施設を行わず、接遇委員会を設置して内部研修を実施している。尊厳やプライバシーに関する考え方については、人としての倫理に重きを置き、声かけや対応に関して常にミーティングで話し合いが行われ全職員での共有することや、互いに注意しあう風土が醸成されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなかご本人の思いを口にできる方が少ないのが現状でございますが、可能な限りにおいて聞き出す、傾聴することの繰り返しの中その方らしい支援を見つけていけるよう努めております。利用者同士の会話の中や馴染みの職員との会話の中にヒントを見出すこともあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間ケアシートでの日常記録を行う中で、その方の日常の流れを把握したうえで、一日の様子を理解したうえでケアに落とし込むように努めております。自傷他害の危険がない環境においては無理強いすることのない生活を送っていただく配慮をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問で美容師さんに入ってくださいカットをお願いしております。必要に応じて美容室などへお連れする方もおります。季節感の失われてしまった方などは、家族の協力を得るなどして清潔で季節に合った身だしなみができるよう支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下の能力を見極めつつ食事の形態を変えながら、その方が食事を続ける楽しみを持っていただけるよう努めております。ご自分で食べていただけるような器や用具などもご本人の様子を見ながら皆で考えて提供しております。食事の準備に関わることができる方は少ないのですが、下膳などを手伝っていただいております。	食事の形態は、利用者個々の状態に応じて普通食、ミキサー食、ゼリー食が提供されている。なるべく、本人の能力を活かして自力摂取ができるように、職員はポジショニングや盛付け、使用するスプーンなど細やかな検討を繰り返し支援を行っている。また、誕生日には希望を聞きながら、メニューや盛付けに工夫を凝らしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療職・看護職とも密に連携をとって、個々人の栄養や水分量などを決めております。必要に応じて嚥下機能の評価をお願いするなどして、状態の把握に努めております。飲食量の低下のある方などには、種類や形状を変化させたりする工夫を凝らして摂取していただく支援も行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の状態に応じて、歯ブラシ、歯間ブラシ、スポンジ、歯磨きティッシュなど使い分けてケアに当たっております。訪問歯科診療を取り入れさせていただきケアに当たっている方もいらっしゃいます。歯科医師の指導等に合わせた個別のケアにも取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間ケアシートにて日々の記録を行う中で、排泄のタイミングを計りつつパターンの把握に努めています。個別のリズムがつかめるまでは食事の前後に排泄を促すようにさせてもらい、リズムが作れるよう努めております。ご本人の機能を活かし可能な限りで排泄の自立を支援しております。	一人ひとりの排泄パターンは、24時間ケアシートを用いて把握を行っている。記録には、排泄時間、量及び性状、使用するパットの種類、ケアの方法に至るまでが詳細に記録されている。職員は、可能な限り自立した排泄ができることを念頭に支援をし、認知症の症状悪化につながる便秘にならないよう整えるケアも実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人の病気(持病等)の確認をきちんと行うことをまず基本として、生活改善で対応可能なものか薬の服用が必要なかなど医学的な判断をかかりつけ医に相談しつつ改善や予防に努めております。なるべく薬を服用せず自然に排便できるよう取り組んでおります。水分の不足が起きないようにまめに少量の補水を行っていただくなどしていただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の状態に応じて、リフト浴・シャワーチェア・寝たきりの方などには二人対応を行っており、安心して入浴ができるよう努めております。特別な事情の際は昼夜問わず対応しております。浴室には浴室乾燥機が設置されており時期と状況に応じて、涼風や暖房を入れるなどして快適な環境に努めております。	職員は、利用者個々の身体状況を見極め、検討を重ねながら全員が浴槽に浸かれるように努力を続けている。浴室の温度や湿度、転倒につながる床の状態など安全面にも留意されている。湯の温度や洗身の方法など個々の意向やこだわりにも最大限柔軟に対応が行われており、利用者はみな入浴を心待ちにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	思い思いの過ごされかたを皆様しておられます。生活リズムがうまく作れない方に対しては、職員のほうから休息の促しをして休んでいただくようにしてもらっております。その時の体調にて頓服薬を必要とする方もおられるので、適宜使用してもらい安眠を促す場合もございます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院及び訪問診療時の医師の指示をきちんと介護職・看護職が共有するよう努めております。服薬準備・内服確認は必ず二人以上のチェックを行うようにし、誤薬がないよう細心の注意を払っております。毎日の朝礼時に変化の有無等を報告し皆で確認しあうよう取り組んでおります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの情報を本人を含めた、周りの方々にお聞きし行えるものをひとつづつ一緒に見つけていこう努めております。洗濯物関わりや読書・お化粧・・・一人ひとりの好みや日々の張り合いを提供できるように取り組んでおります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外気浴を実施しております。介護度の高い方もリクライニング車いすを使用して外に出て、四季を感じていただけるよう努めております。ご家族の協力を得て一時帰宅などを定期的に行っている方もおります。当事業所敷地内には、季節を感じていただけるような木々や花、果樹等もございます。五感に働きかけることが大切であることを事業所として、意識しての空間作りにも気を配っております。	自力での歩行や座位保持が困難な利用者であっても、リクライニング車椅子を使用して外気浴が実施されている。そのため施設の入口は、木々と花が植えられ季節の変化を感じられるように工夫がされている。また、通院の際には、遠回りをしてドライブを楽しめるように配慮をするなど本人の希望に沿った支援が行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には当事業所ではお金の管理は、ご家族の方をお願いしております。買い物支援は利用者さんとともに職員が付き添い、支援できるように取り組んでおります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用することが可能な方においては、外の公衆電話を使用していただくようお願いしております。他の方に関してはご家族の方からお掛けいただくようお願いしております。手紙などは職員がお手伝いをして書くことができるよう支援も行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾りつており、季節を感じていただけるようにしております。温湿度は時間毎に空間のチェックを行っており快適な環境を維持できるよう取り組んでおります。ご利用者の程度反応に応じて採光の調整を行うこともあります。時期に応じてストーブ、加湿器、扇風機などを共有空間に準備し対応に努めております。	職員は常に換気に努め、温度湿度管理も徹底し、快適な環境を整えている。採光、音に関しても、利用者が不快と感じることがないように個々の心身状況に応じた配慮を行い、常に職員が目が行き届き安全性の確保にもつながっている。また、リビングのテーブルには四季折々の花が飾られ利用者の目を楽しませている。	施設内の整理整頓に関しては、火災に対する心配の声が家族アンケートに寄せられている。玄関から廊下、各居室の導線においては、車椅子やストレッチャーが通れるスペースの確保のみならず、燃えやすい段ボール箱などの配置等も考慮した検討が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファや、テレビ、雑誌等を設置しており皆さま思い思いに活用されております。時折職員を交えて皆で談笑したりなどご利用者と職員のコミュニケーションの場としても活用しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の残存機能を生かせる居室作りを心掛けており、ご本人が安心して居室空間を利用できるような配慮をいたしております。お使い慣れたものの持ち込みも可能な限り受け入れております。ご本人やご家族の写真など飾ったり、お孫さんとの面会などで一緒に行っていた折り紙などし、その方独自の居室づくりを支援しています。	利用者一人ひとりのプライベート空間である居室では、ゆっくりとくつろぐことができるよう、本人の意向を尊重したレイアウトとなっている。馴染みの物の持ち込みや小物の並べ方など詳細にも対応し、家族との写真が常に眺められるよう配置を行うなど利用者と共に考える居心地の良い空間づくりを実現している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で行うことが何より大切。自分の持てる機能を生かして生活していただく何かをご本人とともに発見し生活に取り入れることが出来るよう支援しております。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域住民の方へ積極的な情報発信や認知症に対する周知活動を殆ど行っていない。	地域の方に地域福祉の活動拠点となりうる存在であることを周知し、当施設への認識及び理解を深めていただく。運営推進会議への地域の方の参加を促していく。	自治会様・行田団地商店街の方々へ、比較的構えずに介護のことについて、情報や相談などに乗ることが出来る場所があることなどをもう少し分かり易く情報提示する。	6ヶ月
2	3	運営推進会議への参加数が近年横ばいであり、参加者の増加が見られていない。	自治会様、近隣の行田団地商店街・消防署等、生活に密着した関連のある方々の参加を促していく。	当施設が、この地域でどのような活動をしているのか情報発信をしていく。生活にかかわりのある方々に、求めているものを提示し、協力関係を築けるようお願いをしていく。	6ヶ月
3	13	災害対策として近隣住民の方の協力を得る働きかけを積極的に行ってこなかった。	災害対策を施設として徹底して継続訓練を行っていくこと。消防の方と地域住民の方も入った訓練を行えるようにしていく。	火災対策だけではなく、風水害も想定した対応マニュアルを、消防の方々と協力して作成し、自治会や・近隣の方々に周知していくように努力をしていく。	6ヶ月
4	19	施設の思いと入居者様・ご家族様との間に共用空間の作り方の価値観に隔たりがあった。	意図して利用者さんの興味や関心を持っていたりするための物の配置や空間作りを行っているが、整理整頓がなされていない曖昧な空間もあるので、境界線をはっきりさせたい。	共有空間に備品・調度品を配置していることを全員が理解し説明できるように、共通理解を図ったうえで居心地の良い空間作りを行っていく。火災につながるような物は置かないように徹底していく。	3ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。